

## ハイデルベルク信仰問答より

問 114 では、神に向かって回心した者たちは、これらの戒めを完全に守ることができますか。

答え いいえ、できません。それは、回心した者たちの中の最も聖い者でさえ、この世では、ほんのわずかばかり、服従し始めたにすぎないからであります。それにもかかわらず、彼らは神のいくつかの戒めだけではなく、すべての戒めに、熱心に従おうとしはじめています。

## 〔別訳〕

いいえ。それどころか最も聖なる人々でさえ、この世にある間は、この服従をわずかばかり始めたにすぎません。とは言え、その人たちは、真剣な決意をもって、神の戒めのあるものだけではなくそのすべてに従って、現に生き始めているのです。

十戒全体を学んできた読者に向けて、総まとめ的に、キリスト者はそれらを完全に守りうるかどうか問われます。答えは「できない」なのですが、そうなるともそもそも十戒は何のために与えられたのか、その教えを学ぶことの意味とは何なのか、キリスト者になっても自分で何の変化も生じないことなのか、といったいくつかの疑問が湧いてくるでしょう。「答え」では、その疑問に注意深く答えています。ここではキリスト者の内で始まっている二つのことが説明されています。

①回心した者たちの中の最も聖い者でさえ、この世では、ほんのわずかばかり、服従し始めたにすぎない

まず、十戒で教えられている事柄がキリスト者にとって有効であることを知り、それに聞き従うべきであるという認識に至りました。学ばなくては神の御旨を知らないまま一生を終えていたかもしれません。神が喜ばれる生き方を知り、従来自分の生活を省み、御旨に沿う生き方を追い求めるようになりました。何をすると神を悲しませ、何をすると喜ばれるか、神を愛する者がそのように考えるのは自然なことです。結婚すると、パートナーが喜ぶことを考え、厭がることを控えるのと似ているでしょう。信仰を持つとは、神との契約関係（婚姻関係）のスタート地点に立ったことを意味し、最初はまだ分からないことが多くありながらも神のことを考え、神に配慮する生き方を探求し始めたということなのです。「ほんのわずかばかり、服従し始めた」と言われていますが、その「わずかばかり」を大切にする必要があります。自分には神の教えに聞き従うことなどできないと最初から諦めるのではなく、一足ひと足成長させられていく自分の足跡を見て喜んで生きていくほうが前向きでしょう。主イエスは私たちが神を愛する者となるために、十字架で私たちの罪を滅ぼし、私たちとともに新しいいのちに復活し、聖霊によって心に宿ってくださったからです。主イエスが父なる神様を愛するように、私たちは神を愛するようになっていくのです。

私たちは神の作品であって、神が前もって準備してくださった善い行いのために、キリスト・イエスにあって造られたからです。それは、私たちが善い行いをして歩むためです。(エペソ 2:10)

② 彼らは神のいくつかの戒めだけではなく、すべての戒めに、熱心に従おうとしはじめている

十戒を守り行なうということは、「この部分是可以するがこの部分是不能する」と区別するのではなく、常に「十個セット」として捉え、トータルでジワジワと成熟していくイメージでしょう。なぜなら、どの戒めも同じ方向を向きながら互いに関連し合っているからです。「同じ方向」とは二つのこと、神を愛することと人を愛することです。

彼らの議論を聞いていた律法学者の一人が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる戒めのうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ。私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の戒めはこれである。

『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない。」(マルコ 12:29-31)

主イエスは律法の真髄をこの二つの戒めに集約されました。そして、キリスト者とは主イエスの心と一つとなり主イエスと同じように生きることを目的としているのですから、この精神に則って十戒を唱え、十戒を解釈し、生活に適用していくのです。そして、それは「苦行」ではなく、常にキリスト者としての成熟を喜ぶ「過程」となります。